

[シンポジウム報告 講演①]

東京2020大会に向けて

千葉市の取組み



千葉市オリンピック・パラリンピック調整課課長

貞石 渡

千葉市役所の総合政策局オリンピック・パラリンピック調整課長をしております、貞石と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

まず、自己紹介をさせていただきます。名前は、貞石渡といいます。名前はちょっと珍しいかなと思います。この名前の由来は、静岡県静岡市という所にあります。ただ、私の生まれも育ちも千葉市でございます。地元ということもあって、千葉市役所に入所いたしました。ただ、ちょっと今、結婚して市原市のほうに住んでおります。小学校から高校まで、野球をしておりました。現在も、千葉市役所の野球部の部長という肩書で、野球に携わっております。54歳になりますけれども、この年まで、職場も含めまして、スポーツに関わっていけるということで、幸せを感じているところでございます。自己紹介はこれくらいにいたしまして、本日は、30分という時間をいただきましたので、東京2020大会に向けて、千葉市の取り組みを紹介させていただきます。

本日7月13日は、東京2020オリンピック大会開催まで377日。パラリンピック開催まで409日ということになっております。5月には、オリンピック観戦チケットの申し込みもあり、

当選した方、残念ながら外れてしまった方、いろんな意味で、かなり話題になったかと思えます。皆さんの中にも、オリンピック観戦チケットを購入された方も、多くいるかと思えます。いよいよ、オリンピック・パラリンピックが近づいてきたという実感が湧いてきているのではないのでしょうか。ちなみに、私は、見事に全部外れました。私は、この4月に今のオリンピック・パラリンピック調整課のほうに異動してきたわけですが、実は、ちょっと変な気持ちになっておりまして、やったと。正直、ただでオリンピックが見られる、というような思いがありました。そんな、ちょっと変な思いがあった関係で外れてしまったのかなというふうに思っております。

県内の競技開催までの流れといたしましては、まず、記憶に残っている方も多くいらっしゃるかと思いますが、2013年9月に2020大会の開催地が東京に決定され、2015年6月に、幕張メッセでのフェンシング、テコンドー、レスリングの、オリンピック3競技の開催が決定されました。その年の11月には、同じくゴールボール、シッティングバレーボール、パラテコンドー、車いすフェンシングのパラリンピック4競技の開催が決定されたところでございます。ほかに、県内では、一宮町の釣ヶ

崎海岸サーフィンビーチでサーフィンが開催されます。

オリンピック・パラリンピック全体の開催期間は、オリンピックが7月24日の金曜日に開会し、8月9日の日曜日に閉会します。パラリンピックが8月25日の火曜日に開会し、9月6日の日曜日に閉会します。また、幕張メッセ会場でのオリンピック競技のスケジュールは、フェンシングが7月25日から8月2日までの9日間。テコンドーが7月25日から28日までの4日間。レスリングが8月2日から8日までの7日間開催されます。8月2日のレスリングを除くと、毎日18時以降まで観戦ができて、個人競技が多いことから、連日メダリストが誕生いたします。

一方、パラリンピック競技のスケジュールは、ゴールボールが8月26日から9月4日までの10日間。シッティングバレーボールが8月28日から9月6日までの10日間。テコンドーは9月3日から5日までの3日間。車いすフェンシングは8月26日から30日までの5日間開催されます。

オリンピック競技は、皆さんご存じの方も多いと思いますので、ここではパラリンピック4競技の注目ポイントを紹介いたします。ゴールボールは、ロンドンパラリンピック競技大会で、日本代表女子チームが初の金メダルを獲得した競技でございます。シッティングバレーボールも、昨年夏に開催されたアジアパラリンピックで、日本代表女子チームが銅メダルを獲得する等、徐々に実力を上げております。パラのテコンドーは、東京2020大会から正式競技となっております。2月にトルコで開催されました世界選手権では、男女とも個人で銅メダルを獲得しております。車いすフェンシングは、昨年12月に京都で開催されましたワールドカップにおいて、メタルジャケットを着た胴体のみを突くフルーレという種目がありますが、そこで、女子が銅メダルを獲得しております。こう考えると、どの競技も、日本人選手の活躍が大いに期待されるところでございます。

皆さんの中には、様々なスポーツの分野で活躍されている方もいるかと思っておりますけれども、パラアスリートの活躍する姿を、ぜひ、競技会場で観戦し、声援を送っていただきたいと思っております。観戦チケットは、オリンピッ

クの1次申し込みは抽選まで終わったところですが、秋には、2次申し込みができるということです。組織委員会は正式には発表していませんが、8月に1次抽選を外れた方を対象に、申し込みができるという新聞報道も出ていますので、もしかしたら一生に一度のチャンスでございますので、諦めずにお申し込みいただければと思います。パラリンピック観戦チケットは、夏頃としか発表されておりませんが、事前にID登録も必要となりますので、まだ未登録の方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ID登録をお願いいたします。

少し余談でございますけれども、オリンピック・パラリンピックといえば、聖火リレーも話題になるかと思っております。大会組織委員会が公表しております情報といたしましては、オリンピックの聖火リレーは、2020年3月26日に、被災地であります福島県を出発し、7月24日の開会式まで、移動日も含めて121日間で全国をリレーいたします。千葉県を通るのは、7月2日から4日までの3日間でありまして、神奈川県から受け取り、茨城県へ引き継ぎます。サクラをイメージしたトーチが公表され、千葉市内は7月3日に習志野市から幕張メッセまでのルートで実施され、現在、県が8月31日まで33人の聖火ランナーの募集を行っております。千葉市を通る7月3日の終着地点である幕張メッセでは、県主催の聖火の盛り上げイベントであるセレブレーションの開催も予定しておりますので、ぜひ、皆さんもお越しいただきまして、一緒に盛り上がっていただきたいなというふうに思います。

一方、パラリンピックの聖火リレーは、東京都とパラリンピック開催県であります千葉県、埼玉県、静岡県、1都3県において、トーチで火をつなぐリレーを実施いたします。現在、公表されている内容は、実施日が8月19日で、その日に採火式等の聖火フェスティバルを実施する予定でございます。ルート等の詳細は、まだ分かっておりませんが、オリンピック同様、盛り上げていかなければいけないかなというふうに思っているところでございます。オリンピック・パラリンピックともに、聖火ランナーにも大きな声援を送っていただければと思っております。

次に、2019年から2020年の市内で開催される主なスポーツ大会を、ご案内したいと思

ます。東京2020大会まで残り1年となっておりますけれども、今年度は、市内でもテストイベントをはじめ、多くの大会が開催されます。いきなり本大会で大会を見るよりも、オリンピック・パラリンピック競技を事前に観戦していただき、パラスポーツやパラアスリートの魅力を感じ、お気に入りの選手を見つけていただきたいと思います。いくつかの大会は、既に終了してしまっておりますけれども、9月13日から、ワールドテコンドーグランプリ。9月28日から、ジャパンパラゴールボール競技大会が開催される他、12月には、ゴールボールアジアパシフィック選手権大会。高円宮杯。フェンシングワールドカップ。車いすラグビー日本選手権大会。3月には、車いすバスケットボール全国選抜大会等、各競技の大会がめじろ押しとなっております。

ここまでは、大会のスケジュール的な話をさせていただきましたけれども、ここからは、千葉市の取り組みについて、ご説明をさせていただきます。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定後、本市では、オリ・パラに向けた方向性と目指すべき本市の姿を示すための、千葉市行動計画を策定し、その取り組みの結果として、未来に引き継いでいく千葉市の財産、レガシーとなるよう、取り組むことといたしました。大会を本市のさらなる成長や、活性化の好機ととらえ、より一層の発展と、次代を担う子どもたちの夢と希望を育む町。多様性を尊重した共生社会の実現のため、行動計画では、四つの指標を定めました。それは、「大会の成功を実現する。スポーツ文化を普及し、発展させる。多様性に対応した共生社会を実現する。千葉市の魅力を高め、集客、宿泊を最大化する」でして、これらの、取り組みを、市民の皆さまとともに、着実に実行し、大会成功後の2020年の姿が、市民の、そして都市の記憶として引き継がれ、千葉市のさらなる発展と、次代を担う子どもたちの夢と希望を育む、価値のあるレガシーとなるよう取り組んでまいります。

世界最大のスポーツの祭典でありますオリンピック・パラリンピックの開催は、スポーツのみならず文化、教育、国際交流、観光、経済、まちづくり等、様々な分野の発展の好機となります。オリンピック3競技、パラリンピック4競技の競技会場都市として、本市には、

国内外から多くの大会関係者、観客が訪れ、世界中から千葉、幕張に注目が集まることとなり、様々な大会準備を通して開催される2020大会は、都市の発展、魅力の発信、社会の変革、新たな挑戦への起爆剤であり、絶好の機会となります。

そして、パラリンピックの開催は、ハード、ソフト両面の受け入れ環境やおもてなしの意識の醸成等、都市の成熟度が試されるとともに、スポーツを通した共生社会の実現の契機となる等、都市の価値観が大きく変わる時であると考えます。本市では、パラリンピックの成功なくして、オリンピックの成功はないというふうを考えており、東京2020パラリンピックは、幕張メッセを満員にするため、特にパラスポーツの普及、啓発に力を注いでおります。パラリンピックには、共生社会を実現するための、社会の認識を変える力があると考え、成功するためには、行政、大学、企業、団体、市民の力の結集が必要であり、それが、まさしく、都市の成熟度が試されるものでございます。

本市には、車いすバスケットボールの千葉ホークスや、車いすラグビーのRIZE CHIBA等、千葉市を拠点に活動している地元チームの他、世界的にも有名な競技用車いすメーカーがある等、様々な形で車いすスポーツにまつわる環境がございます。パラリンピックを成功させるために、車いすスポーツを一つの切り口にして、多くの人たちに、パラスポーツ全体について関心を持ってもらうために、車いすスポーツの聖地を目指した取り組みを行っております。後で説明するパラスポーツの推進について、2020年以降にも引き続き推進することにより、パラスポーツの盛んな町として、障害のある人もない人も、ともに交流できる町を目指してまいります。

次に、パラスポーツの推進について、本市の具体的な取り組みを少し紹介させていただきます。パラスポーツの普及として、パラリンピアン等のアスリートが学校を訪問し、講話や競技体験を通して、競技や障がい者への理解を深め、市内で開催されるパラスポーツ大会への観戦につなげております。また、地域の方にも見学していただくことで、地域の関心を高めております。この事業は平成28年度より4ヵ年で、市内小、中、養護学校、合計

168校に対し、実施する予定でございます。7月末現在で、131校、1万5,457人の児童生徒がパラアスリートと直接触れ合っております。また、千葉県と連携し、「パラスポーツフェスタちば」を開催し、障がい者にスポーツの持つ可能性や楽しさを知ってもらう他、多くの方にパラスポーツへの価値観を変えるきっかけ作りになるよう、市内で開催4競技の他、車いす2競技、ボッチャ等を体験する機会を創出しております。

その他、地域でのパラスポーツの裾野を広げる取り組みとして、スポーツ指導員を対象としたボッチャ講習会や、競技用具を購入し、6個の拠点体育施設に整備しているところでございます。さらには、パラスポーツファンを拡大する取り組みとして、県や経済界また、大学生のボランティアにもご協力いただき、オール千葉でパラスポーツ大会を盛り上げる、パラスポーツ応援イベント「Go! Together!」を開催しております。

一方、競技開催都市になったということで、私たちが想定していた以上に、例えば、経済界ですとか、大学生、市民の方々がパラスポーツに関心を持ってくださいました。具体的には、パラリンピック2年前イベントは、学生団体「おりがみ」や、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携して、実施いたしました。合わせて、先ほどご案内いたしましたパラスポーツ大会応援イベント「Go! Together!」では、パラスポーツ体験ブースに多くの学生ボランティアに参加いただいた他、経済界とも連携したイベントを開催しております。また、教育委員会では、市内小、中、養護、高等学校で、オリパラ教育として、車いすバスケットボール、シッティングバレーボールやゴールボール等を、授業の一環で展開する他、パラリンピック関連題材、教材を使った道徳等の授業として展開をしております。

その他の取り組みといたしましては、パラリンピック開催を機に、障がい者が住み慣れた地域でスポーツを楽しめる環境づくりにも取り組んでおります。障がい者が地域のスポーツ活動に参加するつなぎ役として、コーディネーターが障害の種類、程度に応じたスポーツの紹介や、サークル活動へのマッチングを行う、千葉市パラスポーツコンシェルジュ

を今月末、7月31日に千葉市のハーモニープラザ内に開設いたします。具体的には、障害福祉サービス事業所等を訪問し、障がい者や職員に対する直接的なアプローチを行い、障がい者に対するパラスポーツの観戦や、各種スポーツサークル、団体へのマッチングを行ってまいります。また、重度の障がい者には、施設にいる理学療法士等と連携し、運動プログラム作成の支援を行い、日頃の生活の中で、スポーツ活動に触れる機会を継続的に提供してまいります。

また、地域での普及を促進するため、千葉市スポーツ振興会等のスポーツ関係団体が実施する行事に対する企画、運営のサポートをし、市民の活動の中で、障がい者との交流を深める取り組みを支援してまいります。合わせて、市内5大学で実施しているスポーツ交流会や、障がい者とその家族を対象としたスポーツ体験会等、これまで行ってきた障がい者がスポーツ活動をするための取り組みを継続することで、より、多くの障がい者がスポーツ活動への参加が促進されるものと考えております。

本市が大学に期待する具体的な活動を、短期的、長期的な取り組みからお話したいと思います。まず、短期的な取り組みといたしましては、現在行っている大学の取り組みを継続することによって、2020大会オリ・パラを機に、多くの学生に障がい者との活動を経験してもらいたいと思っております。パラスポーツをスポーツ文化として根付かせ、スポーツイベントや地域で開催されるパラスポーツ活動へ、ボランティアとして参加していただき、支える人材となっていきたいと思っております。そして、スポーツは、やることも大切なことだと思っております。パラスポーツは障がい者がやるスポーツではなくて、障がい者と一緒のできるスポーツという考え方を、多くの市民に持っていただきたいと考えております。

そして、長期的な取り組みといたしましては、本市が現在取り組んでいる小中学校のオリ・パラ教育を受けた児童、生徒が、大学に進学した際には、インクルーシブな意識をさらに醸成できる教育を展開して、社会へ送り出すことによって、学生がインクルーシブな社会を作る礎となっていただくことです。ま

た、オリ・パラ関連のイベント等を通して、各団体等の強みを生かした連携ができることにより、多様な取り組みによる地域の発展につながっていくものと思っております。こうした考えの下、結果として本市が目指す共生社会のさらなる発展の後押しになるのではないかと、それらを大学に期待しているところでございます。

本市が今まで取り組んできました、福祉的な観点、地域包括ケアシステム、地域によっ

て地域の面倒を見ていただく自助、共助、公助。そういった考えを引き続き継続して持ち続け、地域を発展させる。それが、今回のオリ・パラを契機に、さらに、地域とのつながりというものをもって、千葉市はより発展していくよう、皆さまと一緒に、今後も継続した取り組みを実施していきたいというふうに思っているところでございます。ご清聴、ありがとうございました。